

## 会 議 録

全部記録    要点記録

<b>1 会議名</b>	第4回姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画策定会議
<b>2 開催日時</b>	令和6年2月9日（金曜日）14時00分～16時00分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所 10階 第4会議室
<b>4 出席者</b>	委員16名（1名欠席） 健康福祉局長 事務局：長寿社会支援部
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可・傍聴人：1名
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	1 パブリック・コメントの結果について 2 計画（案）について 3 その他
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>1 パブリック・コメントの結果について</p>
A委員	資料1、6ページの福祉に関わる多職種の他市への流出防止や流入増大について、現状はどうか。
事務局	実際に転出した人数、理由は分かりかねる。U J I ターン支援事業では、他市から本市に転入して市内事業所に就職した方に対して助成をしているので、当該事業を利用された方についてはカウントしているが、実際の流入数については把握していない。
座長	福祉人材はどの地域も不足しているし、人材確保が厳しいという現実がこの中にも表れている。
A委員	明石市では子育て施策が充実しているの、加古川市からの流入が多いと聞いている。施策の違いで福祉人材が流出し不足しているということはないのだろうか。
座長	難しい点はあるが、支援事業を実施し、その成果を踏まえて次の課題を探索し、施策につなげていただきたい。
A委員	資料1、7ページの18番について、小中学校や高校へ理解を働きかけることは重要だと思うが、教育委員会や校長会へ認知症についての理解の働きかけはされていないのか。もしされていないのであれば普及すれば良いのではないのか。
事務局	現在も、小中学校には出前講座のほか、地域包括支援センターの協力でサポーター養成講座を行っている。地域包括支援センターから小中学校に講座を案内しても、断られる学校があるため、積極的に受けもらえるよう教育委員会に地域包括支援課から働きかけていきたい。
座長	多様な働きかけ、ネットワークを広げていくとのことである。
B委員	私たちは、施策について、国・県・市いずれが実施主体なのか分かっていない。市の施策でなければ協議ができないなどと回答されるが、そのような場合は、国や県に提案する、働きかけるなどの回答をいただきたい。意見がどこにも届かないよう

座長	<p>であれば、困りごとをたくさん抱えている現場にとっては苦しい。聞いてもらえる所がここではないのかというつらい気持ちを共有していただきたい。</p> <p>私たちが委員として検討していることは、令和6年度から8年度における市の中でも重要な行政計画である。市の立場や施策的な位置付けもあるかと思うが、市民のために皆さん動いていただいているので、国・県に繋げていただけたらと思う。パブリック・コメントの中には、会議のあり方、会議で出た意見をどのように取り扱ってくれるのかという思いの部分があったかと思う。</p>
事務局	<p>老人福祉施設連盟から現場の声をいただき、新たな施策を考える上でも参考にさせていただいている。今回、つれない回答になっており申し訳なく思っているが、さまざまな機会を捉えて、関係各課でも国や県に要望を上げている。今後も地域に足を運び、現場の声をいただき、ボランティアの活用のほか、シルバー人材センターやハローワークと協力しながら、国・県は関係なく働かれる人口を増やしていけるようにしていきたい。</p>
座長	<p>計画に盛り込めることと盛り込めないことがあるかと思うが、議論のあったところについては大切に扱っていただけるとお聞きした。パブリック・コメントの回答は本計画以外にどこかに掲載されるのか。</p>
事務局	<p>本会議の終了後、ホームページなどに掲載する。</p>
C委員	<p>資料1、7ページの17番と18番に認知症サポーター養成事業のパブリック・コメントが出ている。17番の「サポーター養成事業について受講の把握が不十分」について、回答では「サポーター養成事業は認知症の理解者を増やすことが目的で活動希望登録者数の数は把握している」となっている。サポーターは多いと思うが、活動できる場所が少ないという声があるが、この点に関してはどうか。</p> <p>また、認知症サポーター事業は大切ではあるが、これだけでは問題は解決しないと思うので、次の段階の事業を企画されているのか。サポーターの方が担っていただけることを創設していくと書かれているが、今後どうなっていくのかということもあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>サポーターの養成については、重複していても受講したい方は受けていただき、登録者数を増やすことを目標に養成講座は引き続き進めていきたいと思う。現状では活動ができていないが、何か活動してもらえないか話し合いを始めているので、第9期計画期間においても、さらに検討をしていきたい。</p>
C委員	<p>社会的な資源はとても大切なので地域のパワーとしてうまく利用して、規制緩和して活躍できる場所を作っていただきたい。</p>

座長	<p>サポーター事業については他地域でも同じ意見が出てきている。サポーター事業ができた当初の目的と、それを地域づくりに有効に活かしていくところが行政の場合には重要なのではないかという意見だと思うので検討していただきたい。</p> <p><b>2 計画（案）について</b></p>
D委員	<p>介護保険料は、本計画には記載されないのか。</p>
事務局	<p>市議会において介護保険条例の改正で金額が決定するため、本日の資料には掲載していない。また、審議をいただいてもサービス量に変更が生じることはないという判断から介護サービスの見込み量についても掲載を見送っているが、いずれも計画書の最終版には掲載する。</p>
座長	<p>変更や追加があった場合には委員に報告があり、市民へ提示される内容についても必要な部分は提供されるという意見であった。</p>
D委員	<p>資料2、90ページのアラサメントについて、近年、カスタマーハラサメントが注目されており、介護職員や福祉職の方々に対しても発生している。職員確保や定着につながっていくと思うのでカスタマーハラサメントの記載についても検討いただきたい。</p>
事務局	<p>記載することとしたい。</p>
E委員	<p>資料1、4の中間とりまとめ案からの主な変更点の6だが、離島等の短期入所、生活介護事業所に関して、以前、特養にショートステイとデイサービスが併設されていたと思うが、特養はそのままでショートステイとデイサービスは閉鎖したと聞いている。新たにショートステイの新規事業の計画が上がっているが、例えば、いえしまホームのデイサービスはどうなっているのか。</p>
事務局	<p>特別養護老人ホームのいえしまホームでは、特養、ショートステイ、デイサービス、居宅の4事業を行っていたが、12月で特養以外を閉鎖することになったため、家島の中でのサービスの提供体制については、デイサービスと居宅は家島本島や坊勢に同様のサービスを行っている所があるが、ショートステイが島内で使えなくなっていた。ただ、ショートステイについては介護者のレスパイトのために必要であると考えていたところ、家島島内の事業所から事業の実施に前向きな回答があったため、本来の基準を少し緩和することで、独自でサービスが提供できるようになり、島全体として全てのサービスが提供できる体制となっている。</p>

	<p><b>3 その他（高齢者福祉関連事業見直しについて）</b></p>
D委員	<p>1 ページに有効回答率が載っているが、この調査は今回が初めてではないとすれば、今までの有効回答率との違いはあるか。</p>
事務局	<p>事業見直しについてのアンケートを実施したのは今回が初めてで、40 歳以上の方を対象に現役世代の方にもお伺いをしているため、計画策定に際して実施した 65 歳以上の方を対象にしたアンケートと比較すると全体の回収率は低くなっているが、高齢者の方の回答率については本アンケートにおいても高水準を維持している。</p>
D委員	<p>行政が実施するアンケートはこれよりも回収率が高いことが多いと思うので、今後このようなアンケートを行う時はできるだけ回収率を高める工夫を行っていただきたい。対象者選定についての課題はあるが、今後は Web を活用するほうが馴染みやすいのではないかと思う。</p>
C委員	<p>見直し案について、現行と見直し後の金額を見ると見直し後の方が絞ってあるが、コストカットしてあるのか。</p>
事務局	<p>高齢者の方がどんどん増えてくるので持続可能な事業となるよう見直した。</p>
C委員	<p>現行の予算体制を絞って終活支援や予防支援、デジタル・ディバイド対策をすることかと思えるが、見直し案の中にはそれらが書かれていない。</p>
事務局	<p>現在、予算要求を行っている段階のため、3月議会で審議をいただいて承認されれば確定するので、その際にはより詳しい内容をお示しできることになる。</p>
C委員	<p>今まであったものがなくなっていくと思えばよいのか。</p>
事務局	<p>敬老金については、高齢者の長寿に対する概念も変わってきているので 100 歳に統一し、77 歳、88 歳については一旦終了させていただく。今後は、80 歳になる時に写真撮影の事業などを検討していきたいと考えている。</p>
座長	<p>このアンケートの結果を見て市民の意識として捉えられたことやアンケートを受けて事務局が伝えておきたいことがあれば教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>「何歳以上が高齢者だと思うか」と概念に関する質問をしたところ、75 歳までの方は 70 歳、75 歳を超えた方は振り返って 75 歳だったと回答されている方が多いということが確認できた。長生きだと思う年齢については、回答者の年齢に関わらず</p>

	<p>90歳以上と思っておられることも確認できた。</p> <p>パソコンやスマホについては、検索や電話をかける以外の買物などの利用についてはかなり少ないことから、デジタル・ディバイド対策などのきめ細やかな事業を進めていきたい。</p> <p>介護手当を一般会計から支給をしているが、7、8ページで身体の状態に応じた希望する支援について新たな現物給付などを考えているが、時間が必要なため、引き続き検討をしていきたい。</p> <p>最後の部分については、皆さん自分らしく人生の最期を迎えるにあたって終活支援が大切だと考える一方、実際に終活をされるまでには至っていないことも分かったので終活支援を実施していきたい。また、元気に暮らしていただくため、認知症予防や、外出機会の創出を考えていきたい。</p>
座長	<p>このような結果と分析を今後の施策に生かしていただきたい。</p>
B委員	<p>第9期計画の策定にあたって実施された様々な調査を拝見した。調査結果から、どのように施策に繋がるかを考えていく場がこの会議だと思う。</p> <p>私が参画している地域ケア推進会議では、地域ケア個別会議等から発見された地域課題を地域関係者等と共有し、課題解決のための方策を検討している。これは相談などを受け、本当の地域の悩みや現場の声が整理されて出てきていると考えている。ただ、現状は、これを地域包括支援課で整理し、報告するのみで終わってしまっている。せっかく抽出された地域課題等が、地域ケア推進会議にかけるだけで終わってしまう印象が強いので、このような会議の参考資料でも良いので、結果として施策に通じている過程や整理される前の課題を皆さんに見ていただいて共有すると、一人一人の声が見えてくるのではないかと思う。</p>
座長	<p>様々な機能を持った所でいろいろな意見を集約されているものを共有する仕掛けづくりを行政にお願いしたいという意見だと思う。</p>
事務局	<p>地域ケア会議で出た課題整理や生活支援体制整備に出ている課題のまとめ方には、多少課題があると思うので、課題整理の方法を内部で見直している。さらにそれぞれの課題を解決するところまで踏み込んでいけるように第9期で進めていこうと思っているのでご協力をお願いしたい。</p>
F委員	<p>デジタル・ディバイド対策を考えているということだが、介護現場では利用者さんがICTになかなかついていけない状況なので見守りに関する部分を充実させて欲しい。安心コールも固定電話しか使えないが、固定電話を持っている人が少なくなっているので、使えないという状況が出てきている。高齢者の見守り対策に使えるようなICTを考えてもらいたい。</p>

事務局	安心コールについての要望は承知しており、料金の設定もあるので研究し、次回更新の時には対応ができるような取り組みを検討していきたい。
座長	分野別の行政計画のため、該当分野に特化して意見を皆さんでまとめている。それ自身は非常に幅が広く大きな施策の流れも踏まえて動いているところがあるので事務局も大変だと思うが、本日の意見や市民の声を我々みんなで受け止めながら進めていけたらと思う。